

## 4. 火災の実態

### 1. 火災の概要

平成20年中の火災は、出火件数2,437件、損害額6,160,443千円、死者数84人、建物焼損床面積50,753㎡、建物焼損表面積7,279㎡、林野焼損面積1,897a、焼損棟数1,741棟、り災世帯数1,179世帯、り災人員2,995人となった。

(火災の状況)

区 分	平成20年 ①	平成19年 ②	対前年増減数 ③=①-②	増減率
				③ —×100 (%) ②
出火件数	2,437	2,398	39	1.6
建物火災	1,282	1,288	△6	△0.5
林野火災	96	59	37	62.7
車両火災	234	237	△3	△1.3
船舶火災	2	8	△6	△75.0
航空機火災	1	0	1	0
その他火災	822	806	16	2.0
焼損棟数	1,741	1,871	△130	△6.9
り災世帯数	1,179	1,215	△36	△3.0
り災人員	2,995	3,067	△72	△2.3
焼損面積				
建物床面積 (㎡)	50,753	50,688	65	0.1
建物表面積 (㎡)	7,279	4,885	2,394	49.0
林野 (a)	1,897	239	1,658	693.7
損害額 (千円)	6,160,443	4,329,814	1,830,629	42.3
死者 (人)	84	78	6	7.7
負傷者 (人)	410	430	△20	△4.7

※ H7.1.1 から建物焼損面積について、建物焼損床面積、建物焼損表面積に区分した。

また、平成20年中の火災の発生を一日当たりで見ると、出火件数6.7件、損害額16,878千円、死者数0.23人、建物焼損床面積139.0㎡、建物焼損表面積19.9㎡、林野焼損面積5.2a、焼損棟数4.8棟、り災世帯数3.2世帯、り災人員8.2人である。

### 2. 出火件数

(1) 総出火件数は、2,437件で前年と比べて39件増加している。これを火災種別で見ると次のとおりである。

種別 年	総出火件数	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他
平成20年	2,437件 (100.0%)	1,282件 (52.6%)	96件 (3.9%)	234件 (9.6%)	2件 (0.1%)	1件 (0.0%)	822件 (33.7%)
平成19年	2,398件 (100.0%)	1,288件 (53.7%)	59件 (2.4%)	237件 (9.9%)	8件 (0.3%)	0件 (0.0%)	806件 (33.6%)

- (注) ア 建物火災とは、建物又はその収容物が焼損した火災をいう。  
 イ 林野火災とは、森林、原野又は牧野が焼損した火災をいう。  
 ウ 車両火災とは、原動機によって運行することができる車両及び被けん引車又はこれらの積載物が焼損した火災をいう。  
 エ 船舶火災とは、船舶又はその積載物が焼損した火災をいう。  
 オ 航空機火災とは、航空機又はその積載物が焼損した火災をいう。  
 カ その他の火災とは、アからオまでに掲げる火災以外の火災をいう。

(2) 月別出火件数

出火件数を月別にみると、2月が352件と最も多く、3月340件、1月264件と続いている。

(3) 出火率

出火率（人口1万人当たりの出火件数）をみると県平均4.0件となっている。

3. 損害額

火災による損害額は6,160,443千円で前年比1,830千円（42.3%）増加した。また、県民1人当たりでみると1,001円（前年708円）、1日当たりでは16,878千円（前年11,863千円）、1件当たりでは2,529千円（前年1,806千円）となった。

4. 出火原因

出火件数を出火原因別にみると、次のとおりである。これは例年と同様の傾向である。

総出火件数	放火・放火の疑い	たばこ	こんろ	たき火	火遊び	その他
2,437件 (100.0%)	528件 (21.7%)	242件 (9.9%)	250件 (10.3%)	162件 (6.6%)	94件 (3.9%)	1,161件 (47.6%)

※その他には、上記以外の出火原因21区分及び不明・調査中を含む

5. 死傷者の実態

(1) 死傷者数

火災による死者は84人、負傷者は410人で前年に比べて死者は6人（7.7%）の増となり、負傷者は20人（△4.7%）の減となった。

(2) 火災種別にみる死傷者数

火災種別でみると建物火災が死者67人、負傷者365人でそれぞれ全体の79.8%、89.0%と大部分を占め、林野火災が死者1人、負傷者2人（1.2%、0.5%）、車両火災が死者5人、負傷者11人（6.0%、2.7%）、船舶火災が死者0人、負傷者0人（0%、0%）、その他の火災が死者11人、負傷者32人（13.1%、7.8%）となっている。

(3) 月別の死者数

死者を月別にみると3月が14人と最も多く、次いで2月が12人、1月、5月、7月、12月が8人となっている。

(4) 年齢別の死者数

死者を年齢別にみると次のとおりであり、61歳以上が全体の5割以上を占めている。

区分	0歳～20歳	21歳～30歳	31歳～40歳	41歳～50歳	51歳～60歳	61歳～70歳	71歳以上	不明
件数	5	2	5	15	10	15	32	0
割合	6.0%	2.4%	6.0%	17.9%	11.9%	17.9%	38.1%	0.0%

(5) 死因

死者を死因別にみると火傷15人（17.9%）、自殺17人（20.2%）、一酸化炭素中毒・窒息26人（31.0%）、打撲・骨折0人（0%）その他・不明26人（31.0%）となっている。

6. 火災種別ごとの出火件数及び損害額等

火災種別ごとの出火件数及び損害額は次のとおりである。

火災種別	件数	損害額千円	焼損面積	焼損棟数	り災世帯数	り災人員
建 物	1,282 (0.5%)	4,709,706 (14.7%)	床面積 50,753 m <sup>2</sup> (0.1%) 表面積 7,279 m <sup>2</sup> (49.0%)	1,741 (△6.9%)	1,179 (△3.0%)	2,995 (2.3%)
林 野	96 (62.7%)	3,251 (84.3%)	1,897 a (693.7%)	—	—	—
車 両	234 (△1.3%)	197,348 (43.0%)	—	—	—	—
船 舶	2 (△75.0%)	4 (△100%)	—	—	—	—
航空機	1 (0.0%)	1,191,000 (0.0%)	—	—	—	—
その他	822 (2.0%)	56,595 (6.5%)	—	—	—	—
(爆発)	10 (11.1%)	2,282 (△82.2%)	—	—	—	—

( ) 内は対前年比

※ H7.1.1 から火災の定義に爆発現象が加わった。爆発の件数は出火件数の内数。損害額は外数。  
H7.1.1 から建物の焼損面積について、建物焼損床面積、建物焼損表面積に区分した。

( ) 内の%は、小数点第2位で四捨五入のため、全ての合計が100%にならない場合があります。